

製品安全データシート

MSDS No. 13-0102(2)

製品名 水銀

性質の特定

化学名	水銀
含有量	99.5 %以上
化学式・分子量	Hg=200.59
化学法公示番号	-----
CAS No.	7439-97-8
国連分類	クラス 8 (特別規定: PG 1) 国連番号 - 2809

危険・有害性の分類

分類の名称: 急性毒性物質

危険性: -----

有害性: 蒸気は眼、皮膚を刺激する。蒸気を吸入すると、食欲不振、頭痛、全身倦怠、吐、肺炎、不眠その他精神症状を起こす。皮膚からも吸収される。長期暴露すると心臓系、神経系、腎臓に影響が出ることがある。

環境影響: 生物濃縮あり

応急措置

目に入った場合: 直ちに多量の水で15分以上洗い流す。直ちに医師の手当を受ける。

皮膚に付いた場合: 直ちに汚染された衣服やくつ等を脱がせる。付着部又は接触部を石けん水で洗浄し、多量の水で十分に洗い流す。

吸入した場合: 新鮮な空気の場所に移し、安静保温に努め、直ちに医師の手当を受ける。

誤飲した場合: 多量の水を飲ませて吐かせ、直ちに医師の手当を受ける。

火災時の措置

周辺火災の場合: 速やかに容器を安全な場所に移す。

移動不可能の場合には容器および周囲に散水して冷却する。

着火した場合: -----

消火剤: -----

漏出時の措置

飛散したものはできるだけ空容器に回収し、更に土砂等に混ぜて全量を回収する。そのあとを水で洗い流す。作業の際には必ず保護具を着用し、風下で作業をしない。

19-0102

取扱および保管上の注意

取扱い

- ・ 通気換気を充分に行う。
- ・ 吸い込んだり、眼、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。
- ・ 加熱すると有毒な煙霧およびガスを発生するので注意する。

保 管

- ・ 容器は直射日光を避け、冷暗所に貯蔵し、密閉して、空気との接触を避ける。
- その他 毒物及び劇物取扱法、労働安全衛生法などの法令に定めるところに従う。

暴露防止措置

作業環境	作業環境評価基準	;	0.05mg/m ³
許容濃度	日本産業衛生学会勧告値	;	-----
	ACGIH (TLV)	;	TWA 0.05mg(Hg)/m ³ (skin)
	OSHA (PEL)	;	air. CL 0.1mg/m ³

設備対策

- ・ 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。
- ・ 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保 護 具

保護眼鏡、保護手袋、保護長靴、保護衣、防塵マスク

物理/化学的性質

外 観	銀白色の液体	蒸気比重	-----
臭 気	無臭	蒸気圧	2.7 Pa (25°C)
沸 点	957 °C	比 重	19.5 (20/4°C)
融 点	-39 °C		
溶解度	水に不溶。硝酸に可溶、塩酸に不溶。		

危険性情報 (安定性, 反応性)

引火点	-----	爆発範囲	-----
発火点	-----		
安定性・反応性	アセチレン、塩素、アンモニアと激しく反応。銅および銅合金を侵す。加熱すると有毒な蒸気が発生する。		

有害性情報

急性毒性	吸入-tHCL: 44800 μg/m ³ /8時間	皮膚-tHCL: 120mg/kg/5時間	継続的
刺激性	-----		
変異原性	染色体試験-tH 暴露経路不明: 150 μg/m ³		
がん原性	OSHA, NTP, IARCにがん原性の記載無し。		
慢性毒性	心臓血管系、神経系、腎臓に影響が出る。先天異常、特に胎障害を引き起こすことがある。		

環境影響情報

魚 毒 性	-----
分配係数	-----
その他	環境にとって危険であると思われる；水質汚染および水生生物に対して特に注意すること。

18-0102

廃棄上の注意

回収法

蒸留し再生利用する

輸送上の注意

・運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を留意におこなう。

・その他、労働安全衛生法、毒物および劇物取締法などの法令に定めるところに従う。

運用法令

労働安全衛生法

法第57条（令第18条）名称等を表示すべき有害物
令別表第三の2

作業環境評価基準，作業環境測定基準

毒物及び劇物取締法

毒物 包装等級2

消防法

政令第1条の1 届出を要する物質（90kg）

危険物船舶運送及び貯蔵規則

腐しやく性物質

その他

・引用文献

- 1) 毒劇物基準関係通知集，改訂増補版 厚生省薬 務局安全課監修 薬務広報社(1991)。
- 2) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH(1985-86)
- 3) 産業中毒便覧 後藤彌，他編，医歯薬出版（株）(1977)
- 4) 危険物防災救急要覧—化学物質の性状と取扱い—（社）神戸海難防止研究会編
成山堂書店(1990)
- 5) 国際化学物質安全性カード（I C S C）日本語版 化学工業日報社(1992)
- 6) 米国 O S H A 危険有害性の周知基準—規則と有害性化学物質リスト—(第4版)
日本化学物質安全・情報センター(1988)

・危険・有害性の評価はかならずしも充分ではないので，取扱いには充分注意して下さい。